

(1) 下田小学校

学 校 長 柴田 満嗣

校内研究代表者 浅尾 優加

1. 研究主題

「自ら課題を追求し、主体的に学ぶ子どもの育成」
～伝え合い、学び合い、深め合う算数科の授業づくりを通して～

2. 主題設定の理由

昨年度は、「自ら課題を追求し、主体的に学ぶ子どもの育成」という研究テーマのもと、取り組みを進めてきた。授業の中では、下田小スタンダードに基づいた授業展開をしていくことに加え、「めあて・まとめの連動性」「個人思考を確かなものに」「深い関わり合い」「的確な振り返り」の4つについても共通理解を図り、子ども一人ひとりが活躍できる授業づくりに取り組んできた。その結果、子どもたちが中心となって授業を進めたり、主体的に課題解決に取り組み、友達と共に学びを深めたりする姿が増えてきたと感じる。

しかし、本校の児童には、じっくり話を聞くことや丁寧な作業をすることなど、粘り強く取り組むことに課題が見られる。また、適切に言葉を使って、自分の思いを相手に伝えることが苦手だという児童も少なくない。各種学力調査の結果を見ても、基礎学力の定着や、思考力を必要とする問題、記述問題に課題があり、本校の児童の課題が、学力にも影響を及ぼしていることが見て取れる。

このような実態を踏まえ、今年度も、研究テーマ「自ら課題を追求し、主体的に学ぶ子どもの育成」は継続し、授業改善を進めることを第一とした。そのために、まずは、読み・書き・計算の徹底と、個々に応じた加力学習の充実を図る。そして、既習内容を活かした分かる授業づくりを目指して、学力の底上げを図っていききたい。算数科においても、基礎基本の徹底に努めながら、自分の考えを式や図、言葉などで表現しながら課題解決に向かう児童の姿を目指したい。

また、言葉は物事を考えたり、コミュニケーションを図ったりするための大切なツールである。授業の中や全校の場などさまざまな場面で、自分の考えを書いたり発表したり表現したりしながら、自分自身で考え、自己表現ができる力を育みたい。全教職員の共通理解のもと、本年度の研究を進めていきたいと考えている。

3. 研究の進め方と方法

(1) 研究組織

- ・全体会（校内研究・職員会）
- ・研究推進委員会及び企画委員会・・・第1月曜日（校長・教頭・教務主任・研究主任・事務）
- ・ブロック・・・必要時
- ・部会・・・必要時（低…1年、2・3年、若草担当、養護教諭
高…なかよし、ひまわり、4年、5年、6年）
- 学力向上部（1年、2・3年、4年、教頭）
- 生活指導部（なかよし、ひまわり、6年、若草担当、養護教諭）

(2) 授業研究

- ・全体研…算数2本、道徳1本

(指導案を作成。全体で事前研と事後研を行う。事後研には指導主事招聘。)

- ・ブロック研…算数1本、道徳1本

(指導略案を作成。事前研はブロックで行う。事後研は全体で肯定側、否定側に分かれて協議する。)

- ・事後研では、4つの視点にそってKJ法でよかった点、課題や改善点を出し合い課題解決に迫り、次の授業に生かしていく。
- ・参観者は、授業後に授業参観者カードを記入する。

(3) 水曜日午後の活用の仕方(14:50~16:30)

- ・第1.3.4週…研究主題に関わる研究

運営・・・司会者、記録者は席順で順番制とする。

推進・・・企画委員会が前回までの経過に基づいて研究の方法を提示する。

- ・第2週・・・職員会、生活指導研究・発表朝会の反省

4. 研究主題具現化の視点

(1) 授業改善への取組

- ・見方・考え方を働かせた授業づくりの推進
- ・子どもの考えを引き出すための導入の工夫
- ・子どもの考えを「つなぐ」「広げる」「もどす」ことを意識した「学び合い」を取り入れた授業づくり

(2) 基礎基本の定着

- ・下田小スタンダード、授業改善プランを徹底する。
- ・指導事項の確認
- ・学習計画を提示(見通しを持たせる)
- ・帯タイムを活用し、「読み、書き、計算」の反復練習をする。

(3) 伝え合う力をつけるため

- ・発表朝会
- ・班学習、ペア学習等で関わり合う授業作り
- ・言語活動を取り入れた授業の展開
- ・話し方(聞かせること)の工夫
- ・情報活用能力をつけるための活動の工夫

(4) 語彙をふやすため

- ・辞書の活用(全校一人一冊) 辞書引き大会の実施
- ・並行読書の吟味や課題図書への推進
- ・読む活動の工夫と積み重ね(音読等)

(5) 書く力をつけるため

- ・感想文・行事作文を計画的に実施
- ・要点をまとめる活動の場を設定
- ・グッドノート賞(自主学習)

- ・ 授業の中で書く頻度を高める（自力解決・振り返りなど）
- ・ 視写の継続
- ・ N I E の推進（新聞投稿、はがき新聞・学校新聞作り等）

5. 今年度の成果と課題

【成果】

- ・ 研究授業を全学年で実施できた。講師を招聘した研究授業は3回（算数、複式算数、道徳）、ブロック研は2回（算数・道徳）実施した。また、高知大附属小学校の松山先生による複式授業及び講義を2回実施することができた。
- ・ ブロック研も全校研同様、全教員で授業を参観し、さらに、肯定側と改善側の立場に分かれて協議することで、課題点や具体的な改善案を出すことができた。
- ・ 下田小スタンダードに沿った流れで授業を展開することができている。見通しを持ってめあてを設定し、自分たちの言葉でまとめができるように取り組めた。
- ・ 朝の脳トレタイムで音読、視写、計算、読書、昼のチャレンジタイムで、新出漢字の反復練習を行い、基礎学力の定着につながっている。学期毎の漢字・計算の到達度テストにより個々の課題も見えてきた。
- ・ 自主学習は、低学年から丁寧で工夫されたノート作りができており、毎月のグッドノート賞で賞を取る人も増えてきた。
- ・ 今年度も全校で共通した様々な NIE に取り組むことができた。学習のまとめに、はがき新聞や学校新聞を活用したり、スクラップシート作りを通して新聞記事に興味を持ったりすることができた。高知新聞の読もつかにも定期的に投稿し、多くの児童の作品が新聞に掲載された。
- ・ ICT 機器（タブレット、書画カメラ、デジタル教科書等）を活用した授業づくりを進め、効果的な活用の仕方について学ぶことができた。

【課題・来年度に向けて】

- ・ 基礎基本の定着が未だ課題として挙げられる。前学年までの学習内容の復習や加力、また既習事項を生かした授業づくりを進め、学習した内容を確実に身につけさせていく必要がある。
- ・ 記述問題に弱さが見られるので、問題文の意図をしっかりと汲み取り、自分の考えを理論的に書くことができるよう、考えを伝えたり書いたりする時間を十分に確保しながら、読むこと書くことの力を鍛えていかなければならない。
- ・ NIE の年間計画を立て、教科や行事に組み込むことで、先生方が見通しを持って取り組めるようにしていく。